

蓮池尻遺跡

井原線建設に伴う発掘調査 2

1992

岡山県教育委員会

序

井原線建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、文化庁の前身機関である文化財保護委員会と日本鉄道建設公団との覚書（昭和41年4月1日調印）に基づき、矢掛町以西について旧国鉄時代に調査を完了していただきましたので今回は、真備町内に所在する蓮池尻遺跡について発掘調査を実施しました。

調査の結果、遺構の密度は薄いとはいえ、この地域における縄文時代以降の各時期にわたる人々の暮らしの跡を把握することができました。ここに得られた成果が、今後の文化財の保護保存に、また、地域の歴史解明に生かされることを期待しております。

最後になりましたが発掘調査の実施、報告書の作成にあたって多大な御指導と御協力をいただきました、井原線建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会をはじめ日本鉄道建設公団、真備町、および地域の人々に対し、厚くお礼申し上げます。

平成4年1月

岡山県教育委員会

教育長 竹内 康夫

例 言

- 1 本書は、日本鉄道建設公団の委託により、井原線の建設に先がけて、平成3年に岡山県教育委員会が実施した蓮池尻遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 蓮池尻遺跡は、吉備郡真備町妹に所在する。
- 3 発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが実施し、井上弘、古谷野寿郎が担当した。
- 4 発掘調査ならびに、報告書の作成にあたっては、井原線建設に伴う埋蔵文化財保護対策委員会を設け、下記の方々に委員を委嘱した。対策委員各位からは終始有益なご指導とご助言をいただいた。記して深く感謝の意を表す次第である。

| | |
|-------------------|-------------------|
| 鎌木義昌（岡山理科大学教授） | 角田 茂（岡山県遺跡保護調査団長） |
| 間壁茂子（倉敷考古館学芸員） | 中田啓司（岡山県遺跡保護調査団員） |
| 福本 明（倉敷市教育委員会学芸員） | 絹川一徳（岡山大学助手） |
- 5 発掘調査における遺構図の作成は古谷野、写真撮影は井上が主に担当した。
- 6 出土遺物の整理、報告書の作成は現地調査事務所で実施し、遺物の実測は古谷野、拓本、トレース、遺物の写真撮影は井上が行なった。
- 7 報告書掲載図の方位は真北を、また、レベルはすべて海拔高を使用した。
- 8 報告書に掲載した地形図は、第1図は国土地理院、第2図は真備町刊行のものを使用した。
- 9 報告書に用いた時代区分は、一般的な政治区分に準拠し、それを補うために文化史区分、世紀などを併用した。
- 10 報告書に関する遺物、実測図、写真、マイクロフィルム等は、岡山県古代吉備文化財センターに保管している。

目 次

序

例 言

目 次

| | | |
|---|-------------|----|
| 1 | 地理的・歴史的環境 | 1 |
| 2 | 調査の経緯 | 3 |
| | (1) 調査に至る経緯 | 3 |
| | (2) 調査の経過 | 3 |
| | (3) 調査体制 | 5 |
| | (4) 日誌抄 | 5 |
| 3 | 遺構・遺物 | 7 |
| | (1) 鶏田調査区 | 7 |
| | (2) 皿田調査区 | 8 |
| | (3) 竹西調査区 | 11 |
| | (4) 沖田調査区 | 16 |
| 4 | まとめ | 23 |

図 目 次

| | | |
|------|-------------------------|----|
| 第1図 | 周辺遺跡分布図(1/25,000) | 1 |
| 第2図 | 調査位置図及びグリッド設定図(1/3,000) | 4 |
| 第3図 | 鶏田調査区遺構配置図(1/400) | 7 |
| 第4図 | 土壙1平面図・断面図(1/40) | 7 |
| 第5図 | 出土遺物(1/4・1/2) | 7 |
| 第6図 | 土層断面図(1/80) | 8 |
| 第7図 | 皿田調査区遺構配置図(1/400) | 8 |
| 第8図 | 土壙2平面図・断面図(1/40) | 8 |
| 第9図 | 溝1平面図・断面図(1/100・1/40) | 9 |
| 第10図 | 溝2平面図・断面図(1/100・1/40) | 9 |
| 第11図 | 溝3平面図・断面図(1/100・1/40) | 9 |
| 第12図 | 出土遺物(1/4・1/2) | 9 |
| 第13図 | 土層断面図(1/80) | 10 |
| 第14図 | 竹西調査区遺構配置図(1/400) | 11 |
| 第15図 | 溝4平面図・断面図(1/100・1/40) | 12 |
| 第16図 | 溝5平面図・断面図(1/100・1/40) | 12 |
| 第17図 | 弥生土器出土状態平面図・断面図(1/20) | 12 |
| 第18図 | 出土遺物(1/4) | 13 |
| 第19図 | 出土遺物(1/4) | 14 |

| | | |
|------|----------------------------|----|
| 第20図 | 出土遺物(石器)(1/2) | 14 |
| 第21図 | 土層断面図(1/80) | 15 |
| 第22図 | 沖田調査区遺構配置図(1/400) | 16 |
| 第23図 | 溝11・土壙3平面図(1/100) | 16 |
| 第24図 | 土壙3出土遺物(1/4) | 16 |
| 第25図 | 溝6・7平面図(1/100) | 17 |
| 第26図 | 溝8・9・10平面図・断面図(1/100・1/40) | 17 |
| 第27図 | 溝8出土遺物(1/4) | 18 |
| 第28図 | 溝9出土遺物(1/4・1/2) | 19 |
| 第29図 | 溝11出土遺物(1/4) | 20 |
| 第30図 | 溝12平面図(1/100) | 20 |
| 第31図 | 出土遺物(1/4・1/2) | 20 |
| 第32図 | 土層断面図(1/80) | 21 |

表 目 次

| | | |
|----|----------|---|
| 表1 | グリッド杭座標値 | 6 |
|----|----------|---|

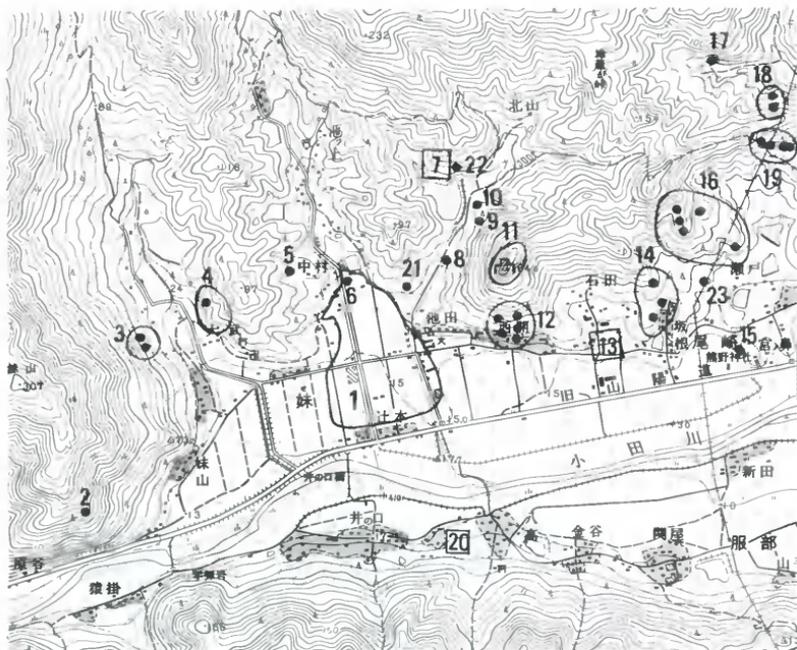
図 版 目 次

| | | | |
|-------|-------|-------------|-------|
| 図版1-1 | 鶏田調査区 | 土壙1検出状況 | (南から) |
| 図版1-2 | 鶏田調査区 | 全景 | (西から) |
| 図版2-1 | 皿田調査区 | 溝2検出状況 | (北から) |
| 図版2-2 | 皿田調査区 | 溝1検出状況 | (北から) |
| 図版3-1 | 皿田調査区 | 遺構検出状況 | (東から) |
| 図版3-2 | 竹西調査区 | 西端部河道検出状況 | (東から) |
| 図版4-1 | 竹西調査区 | 溝5検出状況 | (南から) |
| 図版4-2 | 竹西調査区 | 西半全景 | (東から) |
| 図版5-1 | 竹西調査区 | 東半全景 | (東から) |
| 図版5-2 | 竹西調査区 | 弥生土器出土状況 | |
| 図版6-1 | 竹西調査区 | 弥生土器出土状況 | |
| 図版6-2 | 竹西調査区 | 弥生土器出土状況 | |
| 図版7-1 | 竹西調査区 | 弥生土器出土状況 | |
| 図版7-2 | 沖田調査区 | 溝6・7検出状況 | (西から) |
| 図版8-1 | 沖田調査区 | 溝8・9・10検出状況 | (東から) |
| 図版8-2 | 沖田調査区 | 全景 | (西から) |
| 図版9 | 出土遺物 | | |
| 図版10 | 出土遺物 | | |

1 地理的・歴史的環境

蓮池尻遺跡は、吉備郡真備町妹に所在する。真備町は、岡山県の南西部に位置し、東は高梁川を境に清音村、北は高山を境に総社市、西は鷲峰山を境に矢掛町、南は弥高山、大平山を境に倉敷市、船穂町と接している。遺跡は、町の中央部に広がる平地の西端部に位置している。

北側の山塊は、県中部より広がる吉備高原に連なる山であり、その南端を西から東に流れる小田川により切断されている。この小田川にそって平地が展開する。小田川の南には、弥高山



第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

周辺遺跡分布図

- | | | | |
|---------------|-----------------|--------------------|---------------------|
| 1. 蓮池尻遺跡 | 7. 懸鉢塚寺 | 13. 高徳寺 平安～中世) 室町? | 19. 向坂古墳群 |
| 2. 妹山祭祀遺跡 | 8. 内山古墳 (横穴式石室) | 14. 坂根古墳群 | 20. 八高馬寺 |
| 3. 堀木古墳群 | 9. 内山古墳 | 15. 黒宮大塚 | 21. 鉢須須磨器出土地 |
| 4. 油田古墳群 | 10. 内山池東古墳 | 16. 瀬戸古墳群 | 22. 骨藏器出土地 |
| 5. 古墳 (箱式石椁) | 11. 鳥ヶ岳城跡 | 17. 高馬古墳 | 23. 「矢田部益足買地券」推定出土地 |
| 6. 蓮池尻遺跡銅鐻出土地 | 12. 西開古墳群 | 18. 矢砂大池古墳群 | |

等の山塊があり、その北斜面は急崖をなしている。小田川に向けては、北側の山塊より大武谷川、背谷川、内山谷川等の小河川が流れ込んでおり、それらの河川により形成された扇状地上に遺跡は存在する。

小田川にそって開ける平野は、西から東に向けてその面積を拡大しながら、総社平野へつながり、古代の吉備地方における重要な一角を成していたものと考えられる。現在までに町内に知られる遺跡には旧石器時代ものは確認されていない。縄文時代ものは、昭和60年度の圃場整備事業に伴う確認調査において後期の土器がまとめて出土しており、町内で最も古い時代の遺物といえる。弥生時代についても確認調査において前期の遺物が出土したことにより知られることとなった。中期以後については、数か所の遺跡が知られていた。中でも、流水文銅鐸は有名である。弥生時代終末期の特殊器台を使用した墳墓として、市場の立坂遺跡、尾崎の黒宮大塚遺跡がある。また、特殊器台を土器棺に転用したものが箭田の西山遺跡から出土している。

古墳時代の遺跡としては、胴丸式挂甲を出土した古墳として知られる南山の天狗山古墳がある。この古墳は、全長45mの帆立貝式で馬蹄形の空堀を備えており、高梁川と小田川の合流点に近い位置に立地している。この古墳の西約1kmには、全長約42mを測る前方後円墳がある。二万大塚古墳で、横穴式石室を内部主体に持つ古墳である。箭田に所在する箭田大塚古墳は、長大な横穴式石室を内部主体に持つもので、造出しを持つ径46mの円墳である。石室は、全長19.1mを測るものである。玄室の長さは、8.4m、最大幅3m、高さ3.8mを測るものである。この石室の大きさは、全国的にも屈指のものである。小規模な横穴式石室墳は、町内の各所に存在する。

奈良時代の遺跡としては、吉備寺跡（箭田廃寺）、岡田廃寺、八高廃寺がある。これらは約2km前後の間隔をおいて建立されている。また、市場、内山等からは骨蔵器が出土している。尾崎からは「矢田部益足買地券」の出土が推定されており、奈良時代の遺跡、遺物に注目すべきものがある。

参考文献

- 岡山県教育委員会 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』 62 1986.3
岡山県教育委員会 『岡山県遺跡地図』 第4分冊 1976.3
『岡山県史』 原始・古代Ⅰ 1991.9
倉敷考古館 『倉敷考古館研究集報』 第15号 1980.4

2 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

昭和48年2月から、翌年3月にかけて井原線に關係する発掘調査が実施されている。矢掛町内に所在する川面館^{かわもやかた}、毎戸遺跡^{まいど}、毎戸西方遺跡^{まいどにししかた}の調査がそれである。この調査は、旧国鉄時代に建設に先立って発掘したものである。しかし、同線は工事の完成をみないままに計画が一時中止となった。その後、国鉄が解体されたが、地元から井原線の全面開通を強く要望されるようになった。そのような状況のもとに第三セクターによる井原線の運営会社が設立され、鉄道建設公団による工事も再開されるに至った。

平成2年4月鉄道建設公団より発掘通知が提出された。対象となる遺跡は、吉備郡真備町妹に所在する蓮池尻遺跡である。この遺跡は銅鐸を出土したことで知られており、昭和60年には、圃場基盤整備事業にともない遺跡の確認調査を実施していた。その結果をもとに遺跡の範囲を想定していた。鉄道は、その想定範囲の南端に近い部分を東西に横切るものであった。公団としては、当初平成2年度内の調査を希望していたが、県教育委員会としては山陽自動車道等数多くの事業を施行中であること、用地が未買収であること等から次年度以降の調査に予定していた。その後、用地買収については年度内に完了する見込みがついたため平成3年4月から調査に着手することとなった。調査にあたっては、用地に接する部分を片側に幅8m、もしくは両側に幅4mを借地して排土置き場等とした。

(2) 調査の経過

発掘調査を開始する前に、地元住民、圃場整備に關係する役員等の出席をえて発掘調査についての説明会を開催した。同時に、次の事項についての地元からの要望、希望等についての説明を聞いた。

① 用排水路の保全と悪水の排水について

② 圃場整備に關係して、調査区の調査順位について

①については、調査区にたまった悪水を排水するためのもので、地図の上で指示をえた。しかし、調査区より下流にある田畑に被害を及ぼさないためであり、また、田植えがまじかに迫っていることもあり調査着手後に再度現地で確認することとした。

②については、圃場整備工事との關係において、工事に支障を及ぼさないように順番と工事着手時期の見通しを聞き、できるだけ要望にそえるように調査することとした。そのための調査順位として、沖田地区の東端で一段低い田を最初に調査し、4月中に完了させる、次に、皿田



第2図 調査位置図及びグリッド設定図 (1/3,000)

地区を6月中に終了させるように要望があった。

調査は、4月中旬に着手することとし、東西に長い調査範囲となるため小字名を使用して東から、沖田調査区、竹西調査区、皿田調査区、鷄田調査区とした。測量のための基準点としては、井原線の中心杭である12K000杭を利用し、真北を基準に20mごとに割り付けることにした。しかし、調査区の幅が6m弱であることから、20mグリッドの交点に杭を打つことは無理であると考えられるため、20m間隔の基準線上で北側、及び南側の用地境に杭を打つことにし、東西の基準線から杭までの距離を読み取るによりグリッド上の位置を知ることにした。

発掘調査は、沖田調査区の東端部分から着手した。この部分を4月中に完了させると、皿田調査区、鷄田調査区の順に調査し、両調査区を6月中に完了させた。7月からは竹西調査区を、8月からは沖田調査区の調査を実施し、同月末をもって全体の調査を完了させた。

対策委員会は、第1回を8月17日に現地にて開催し、調査の進展状況、検出遺構、出土遺物等について説明し、審議した。第2回は9月27日に開催し、報告書の作成とその進捗状況、作成の方針等について説明し、審議した。

(3) 調査体制

岡山県古代吉備文化財センター

| | |
|---------|-------|
| 所長 | 横山 常實 |
| 次長 | 河本 清 |
| 総務課長 | 藤本 信康 |
| 同課長補佐 | 小西 親男 |
| 主査 | 平松 郁男 |
| 主任 | 坂本 英幸 |
| 調査第二課長 | 正岡 睦夫 |
| 同課長補佐 | 井上 弘 |
| 文化財保護主査 | 古谷野寿郎 |

(4) 日誌抄

| | |
|--------------------------|--------------------|
| 4月1日 調査準備 | 沖田調査区東端部から調査 |
| 9・10日 鉄建公団、真備町、倉敷振興局と打合せ | 22日 皿田調査区の調査着手 |
| 16日 地元説明会 | 5月1日 東側地山検出するも遺構無し |
| 19日 調査着手、資材の搬入 | 10日 包含層掘下げ、溝の検出 |
| | 16日 全景写真撮影、鷄田調査区の調 |

査着手

6月1日 河道の掘下げ

5日 土壌の実測、写真撮影

18日 掘下げ、断面実測

24日 鶏田調査区調査終了、竹西調査区
の調査着手

皿田・鶏田調査区埋め戻し

7月9日 包含層の掘下げ、溝の検出と掘
下げ

15日 西半写真撮影

18日 弥生土器（前期）出土

30日 沖田調査区の調査着手、竹西調
査区写真撮影

8月5日 溝の検出と掘下げ

17日 包含層の掘下げ、溝断面の実測

22日 土層断面の実測、写真撮影

26日 沖田・竹西調査区埋め戻し

30日 発掘資材の搬出、蓮池尻遺跡の
調査完了

(井上)

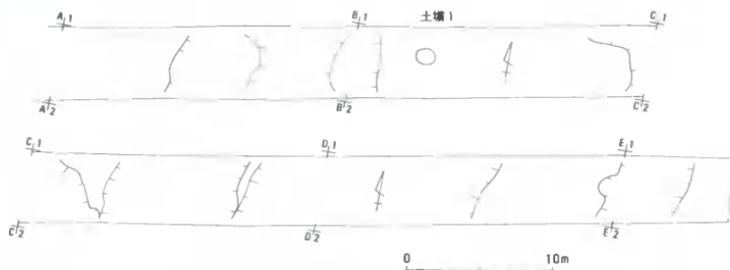
表1 グリッド杭座標値

| 杭 | X座標 | Y座標 |
|-----|----------------|---------------|
| A-1 | -152936.064975 | -62235.800778 |
| B-1 | -152932.365008 | -62215.801096 |
| C-1 | -152928.764896 | -62195.800544 |
| D-1 | -152925.264766 | -62175.800688 |
| E-1 | -152921.564848 | -62155.801301 |
| F-1 | -152918.564750 | -62135.800748 |
| G-1 | -152915.364973 | -62115.801261 |
| H-1 | -152912.364811 | -62095.800649 |
| I-1 | -152909.665320 | -62075.801329 |
| J-1 | -152907.965241 | -62055.801149 |
| K-1 | -152905.3650 | -62015.8000 |
| L-1 | -152905.1650 | -61975.8000 |
| M-1 | -152905.8650 | -61955.8000 |
| N-1 | -152907.0650 | -61935.8000 |
| O-1 | -152910.7650 | -61895.8000 |
| P-1 | -152913.3650 | -61875.8000 |
| Q-1 | -152916.6650 | -61855.8000 |
| R-1 | -152920.3650 | -61835.8000 |
| S-1 | -152924.5650 | -61815.8000 |
| T-1 | -152929.564952 | -61795.799962 |
| U-1 | -152934.764981 | -61775.799888 |

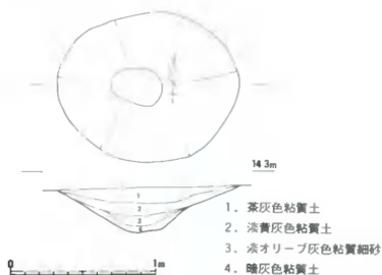
| 杭 | X座標 | Y座標 |
|-----|----------------|---------------|
| A-2 | -152941.644975 | -62235.800778 |
| B-2 | -152937.934008 | -62215.801096 |
| C-2 | -152934.250896 | -62195.800544 |
| D-2 | -152930.789766 | -62175.800688 |
| E-2 | -152926.942848 | -62155.801301 |
| F-2 | -152922.878750 | -62135.800748 |
| G-2 | -152919.947973 | -62115.801261 |
| H-2 | -152916.848811 | -62095.800649 |
| I-2 | -152914.934320 | -62075.801329 |
| J-2 | -152913.064241 | -62055.801149 |
| K-2 | -152910.9320 | -62015.8000 |
| L-2 | -152910.8370 | -61975.8000 |
| M-2 | -152911.4310 | -61955.8000 |
| N-2 | -152912.5960 | -61935.8000 |
| O-2 | -152916.3870 | -61895.8000 |
| P-2 | -152919.1490 | -61875.8000 |
| Q-2 | -152922.2900 | -61855.8000 |
| R-2 | -152926.0710 | -61835.8000 |
| S-2 | -152930.3420 | -61815.8000 |
| T-2 | -152934.964980 | -61795.799845 |
| U-2 | -152940.564937 | -61775.800037 |

3 遺構・遺物

(1) 鶏田調査区

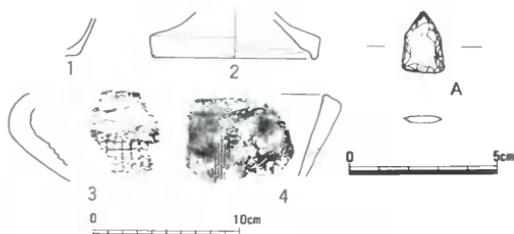


第3図 鶏田調査区遺構配置図 (1/400)



第4図 土壌1平面図・断面図 (1/40)

1. 茶灰色粘質土
2. 淡黄灰色粘質土
3. 淡オリーブ灰色粘質細砂
4. 暗灰色粘質土



第5図 出土遺物 (1/4・1/2)

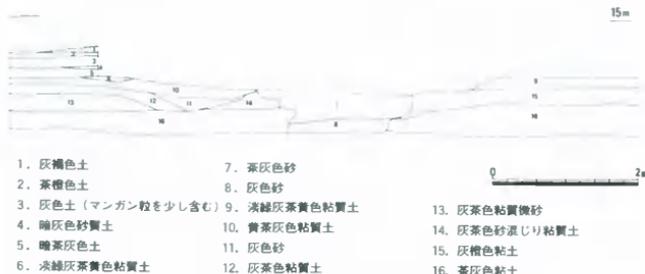
土壌1 (第4図)

調査区中央やや西寄り、グリッドBラインの東側で検出した。平面形態はやや東西に長い楕円形を呈しており、規模は、南北105cm、東西120cmを測る。断面の形状はすり鉢状を呈しており深さ32cmを測る。埋土は4層に分けられ、最下層は炭化物を多量に含んでいた。遺構からの出土物がないので時期については不明である。

包含層の遺物 (第5図)

鶏田調査区からの出土遺物は非常に少なく、図示できた遺物は1から4の土器と、Aの石器

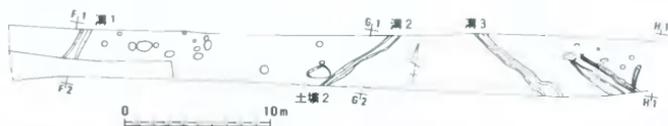
の5点である。1は壺形土器あるいは甕形土器の底部である。胴部外面はヘラミガキで仕上げている。2は脚部下端をわずかに内側へ折り曲げ、端部を突出させた高杯形土器の脚部である。



第6図 土層断面図 (1/80)

摩耗が著しいため調整の観察はできない。弥生時代後期の特徴を示す。3は亀山焼の甕形土器である。胴部外面には1cmあたり4個の彫りの深いタタキ目が施される。断面の色調は、内・外面が淡黄褐色、断面の中心部分が黒灰色を呈する。4は同じく亀山焼のすり鉢である。胴部内面には1単位7本から8本のカキ目が施される。断面の色調は、内・外面が淡黄褐色、断面の中心部分が灰黒色を呈する。Aはサヌカイト製の打製石鏃で、五角形を呈しており基部が丸味をおびた円基式である。全面にわたり風化が著しいが完形品である。大きさは、長さ2.1cm、幅1.4cm、厚さ0.3cm、重さ0.78gを測る。

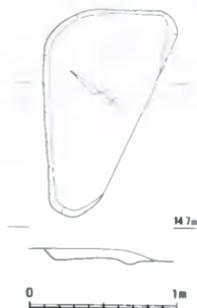
(2) 皿田調査区



第7図 皿田調査区遺構配置図 (1/400)

土壌2 (第8図)

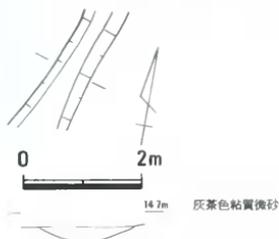
調査区の西寄り、グリッドGラインの西側に位置している。遺構の規模は長径145cm、短径30cmから90cm、深さ5cmから13cmを測る。平面形態は隅丸の東西に長い台形で、断面形は逆台形を呈している。南側は近・現代の用水路によって切られており、完存していない。出土遺物はない。



第8図 土壌2平面図・断面図 (1/40)

溝1 (第9図)

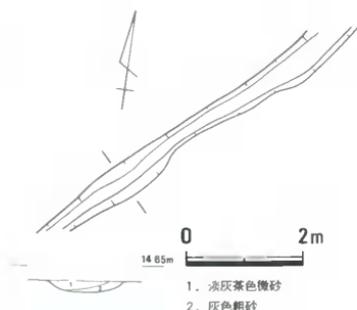
調査区の西端近くで検出したもので、南側を近・現代の用水路で切られている。溝は北東から南西方向へ流れ、断面形は浅い皿状を呈する。規模は、幅70cmから90cm、深さ10cmから13cmを測る。溝からの出土遺物はない。



第9図 溝1平面図・断面図 (1/100・1/40)

溝2 (第10図)

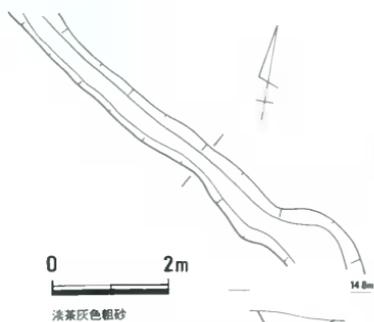
グリッドGラインを斜めに切り、西岸の南端が土壇2と接する位置で検出した。北東から南西方向へ流れるもので、断面形は浅い皿状を呈する。規模は、幅40cmから60cm、深さ3cmから6cmを測る。遺構からの出土遺物はない。



第10図 溝2平面図・断面図 (1/100・1/40)

溝3 (第11図)

調査区中央やや西寄りで、溝2の東に位置している。北西から南東方向へ流れるもので、断面形はU字形を呈する。規模は、幅60cmから110cm、深さ10cmから20cmを測る。遺構からの遺物はない。

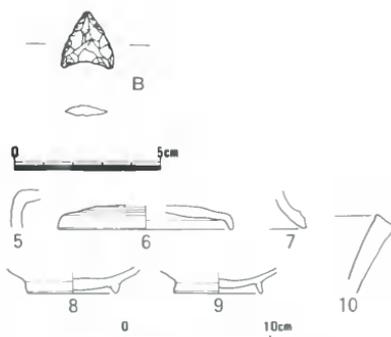


第11図 溝3平面図・断面図 (1/100・1/40)

包含層の遺物 (第12図)

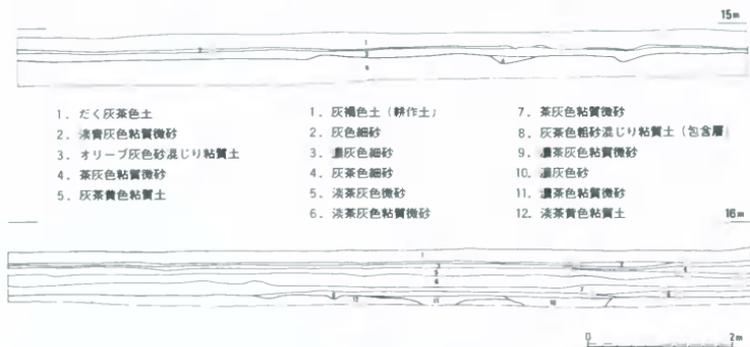
皿田調査区からの出土遺物も少なく、図示できた遺物は、5から10の土器、Bの石器のみである。

5は口縁部が逆L字状に外反する甕形土器で



第12図 出土遺物 (1/4・1/2)

ある。器面は摩耗のため調整の観察はできない。色調は黄褐色を呈し、胎土には0.5mmから5mm大の石英、長石を含む。6は口縁部がやや外開きに下がり、同端部を丸くおさめた須恵器の蓋である。天井部は摩耗のためヘラケズリの方向は観察できない。天井部内面はナデによって仕上げている。色調は灰白色を呈し、胎土には1mm以下から3mm大の石英、長石を含む。7



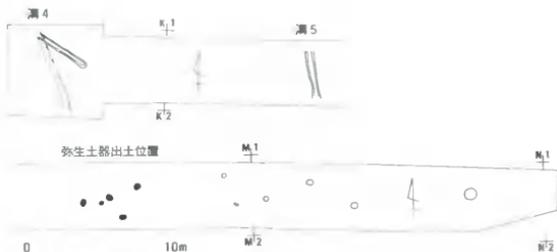
第13図 土層断面図 (1/80)

は須恵器の高杯の脚部である。外面には部分的に自然釉がかかっている。8は断面が逆三角形の貼り付け高台を有する早島式土器の碗の底部である。高台の径6cm、高さ6mmを測る。色調は淡赤褐色を呈し、胎土には1mm以下から3mm大の砂粒、焼土の小粒を含む。時期は中世である。9は断面が四角形の貼り付け高台を有する早島式土器の碗の底部である。高台の径6cm、高さ7mmを測る。色調は淡赤褐色を呈し、胎土には1mm以下から3mm大の砂粒を含む。時期は中世である。10は亀山焼のこね鉢である。摩耗が著しく調整の観察はできない。内面の一部に黒斑がある。色調は茶褐色から淡橙褐色を呈し、胎土には1mm以下から3mm大の石英、長石を含む。時期は中世である。Bはサスカイト製の打製石鏃の完形品である。平面形は両側の短かい五角形を呈しており、基部に抉入のある凹基式である。大きさは、長さ1.7cm、幅1.7cm、厚さ0.3cm、重さ0.81gを測る。

(3) 竹西調査区

溝4 (第15図)

調査区の西端に位置している。南東から北西方向へのび、微高地の端部に向かって流れるもので、上部が削平されているため底部がわずかに浅い皿状に残存していた。溝の規模は幅40cm



第14図 竹西調査区遺構配置図 (1/400)

から50cm、深さ約5cmを測る。埋土は灰色粘質土で出土遺物はない。

溝5 (第16図)

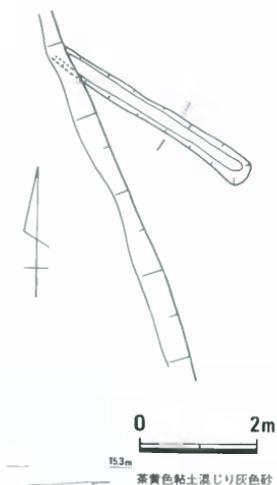
グリッドKラインの東で検出した。古代の遺物を含む包含層から掘りこまれており、断面形は逆台形を呈する。溝はほぼ磁北と一致し、北から南方向へ流れるもので、検出した溝の規模は、幅50cmから60cm、深さ約10cmを測る。溝からの出土遺物はない。

包含層の遺物 (第18～20図)

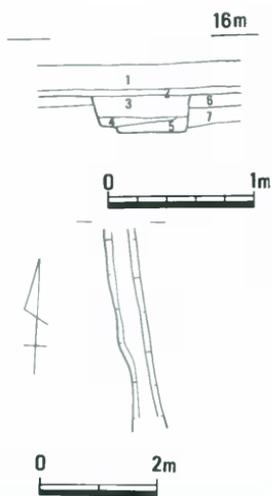
竹西調査区からの出土遺物も多くはないが、前期弥生土器の出土が量的にもまとまっており、今回の調査においては注目される遺物である。遺物は11から31までの土器、CからEの石器である。グリッドLラインからMラインにかけての間で、弥生時代前期後半の土器がまとまって出土した。ほとんど甕形土器であるが、鉢形土器もある。

甕形土器は、口縁部が「く」字状に外反するものと、逆L字状口縁のものがある。前者では頸部から胴部にかけてヘラ描沈線のあるもの (13・17・24・25・27)、口縁部に刻目を有し、頸部から胴部にかけてヘラ描沈線のあるもの (12・14・22・23) がある。後者では無紋のもの (11)、口縁端部に刻目を有するもの (29)、口縁端部に刻目を有し頸部から胴部にヘラ描沈線のあるもの (16・18・20・21)、頸部から胴部にヘラ描沈線のあるもの (19・28) がある。

逆L字状口縁のものは、口縁部が直角かこれに近く外反し水平におさまるもの (11・18・19・20・21) と、下方にやや下がるもの (16・28・29) とがある。



第15図 溝4 平面図・断面図 (1/100・1/40)



第16図 溝5 平面図・断面図 (1/100・1/40)

1. 茶灰色土 (耕作土)
2. 茶褐色土
3. 淡茶灰色砂質土
4. 淡茶灰色砂
5. 淡黄灰色砂
6. 灰茶黄色砂質土
7. 暗灰茶褐色砂質土

口縁部の形態は不明だが、胴部に刻目を施した突帯を配するもの(30)がある。

頸部から胴部にかけてヘラ描沈線と刺突文を施すもの(14・22・20・26)がある。

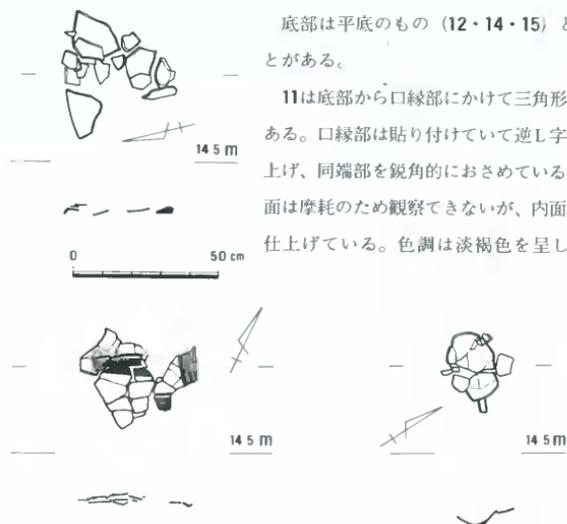
沈線はいずれもヘラ描が、7本から19本以上と多条化の

傾向を示す。

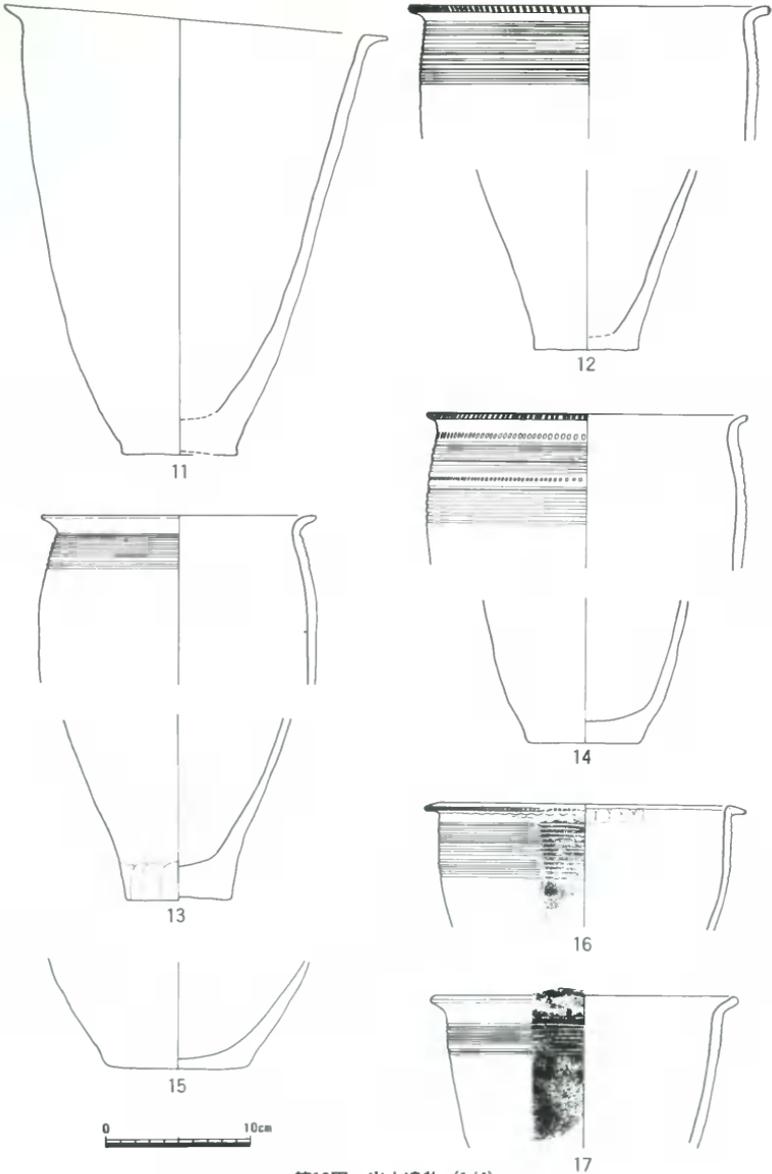
底部は平底のもの(12・14・15)と上げ底のもの(11・13)とがある。

11は底部から口縁部にかけて三角形状に開く無紋の甕形土器である。口縁部は貼り付けていて逆し字状を呈し、上面を水平に仕上げ、同端部を鋭角的におさめている。底部は上げ底である。外面は摩耗のため観察できないが、内面の頸部はオサエの後ナデで仕上げている。色調は淡褐色を呈し、胎土には1mm以下から5mm大の砂粒を含む。

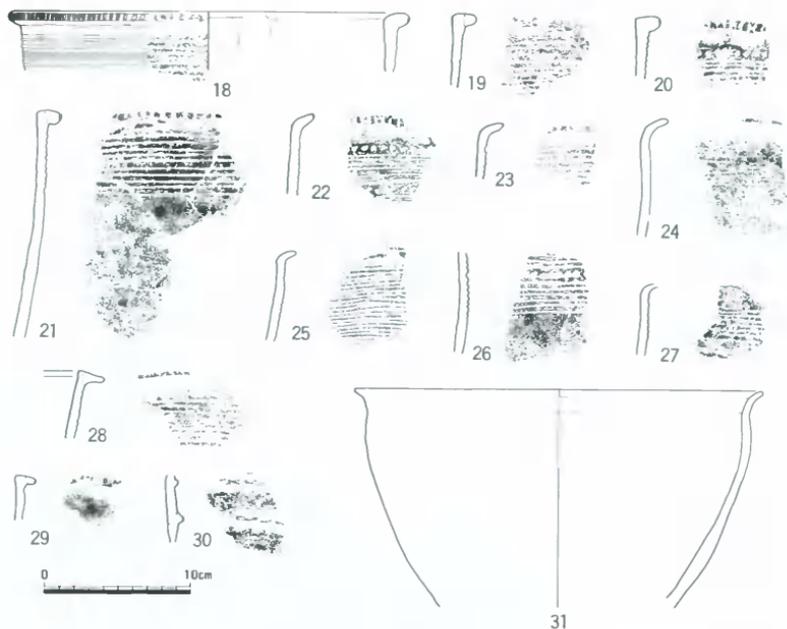
12は口縁部が「く」字状に外反し、同端部を丸くおさめ、刻目を施した平底の甕形土器である。頸部には12条のヘラ描沈線を施している。器面は摩耗が著し



第17図 弥生土器出土状態平面図・断面図 (1/20)

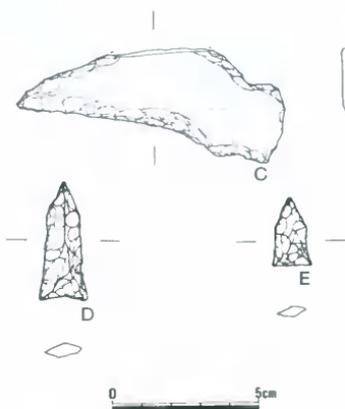


第18図 出土遺物 (1/4)



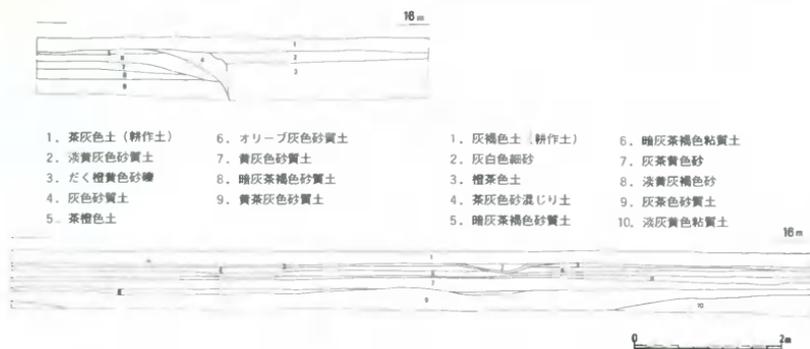
第19図 出土遺物 (1/4)

く調整の観察はできない。色調は橙褐色を呈し、胎土には1mm以下から4mm大の砂粒を含む。13は「く」字状に外反した口縁部の上面の一部を平坦にし、同端部を丸くおさめた上げ底の甕形土器である。頸部に8条のヘラ描沈線を施す。器面は摩耗が著しく調整の観察はできない。色調は淡茶褐色を呈し、胎土には1mm以下から6mm大の石英、長石を含む。14は口縁部を「く」字状に外反させ、同端部を丸くおさめ、刻目を施した甕形土器である。頸部から胴にかけての外表面は、ヨコナデの後、楕円形の刺突文と6条のヘラ描沈線を交互に2段にわたり配している。底部は平底である。色調は淡茶褐色を呈し、胎土には1mmから4mm大の石英、長石、金雲母を含む。17は口縁部を「く」字状に



第20図 出土遺物 (石器) (1/2)

外反させ、同端部を丸くおさめた甕形土器である。頸部から胴部にかけてヨコナデの後、7条のヘラ描沈線を施して仕上げている。外面にはほぼ全面に煤が付着している。色調は灰褐色を

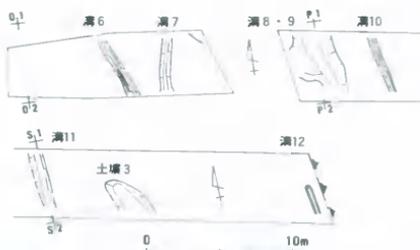


第21図 土層断面図 (1/80)

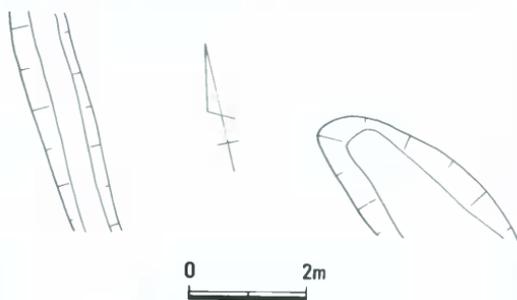
呈し、胎土には1mmから3mm大の石英、長石、金雲母、赤色小粒を含む。31は口縁部が「く」字状に外反し、同端部を丸くおさめた鉢形土器である。頸部の内・外面には、口縁部を引き出すために施されたオサエがあり、その後をナデによって仕上げている。色調は淡黄褐色を呈し、胎土には1mmから4mm大の石英、長石、金雲母を含む。

Cはサヌカイト製の打製石鎌である。大きさは横9.1cm、縦3.1cm、厚さ0.45cmであり、重さは17.49gを測る。Dはサヌカイト製の打製石鎌である。形状は縦に細長い五角形を呈し、基部、両側縁ともに少し内彎する。大きさは長さ4cm、幅1.7cm、厚さ0.45cmで、重さは2.33gを測る。Eもサヌカイト製の打製石鎌である。形状は縦長の五角形を呈し、基部が直線で、両側縁が少し内彎する。大きさは長さ2.3cm、幅1.3cm、厚さ0.4cmで、重さは0.81gを測る。

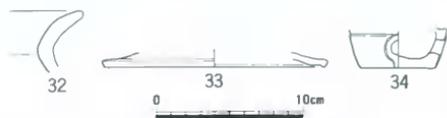
(4) 沖田調査区



第22図 沖田調査区遺構配置図 (1/400)



第23図 溝11・土壙3平面図 (1/100)



第24図 土壙3出土遺物 (1/4)

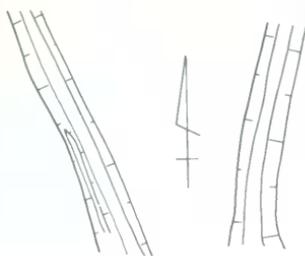
土壙3 (第23・24図)

調査区中央のやや東寄り、グリッドSラインの東で検出した。遺構は南側の調査対象地外へも広がっているため、全体の形状は不明である。平面形はU字形を、断面形は浅い逆台形を呈した凹地状の遺構である。規模は幅100cmから200cm、深さ約10cmを測る。

出土遺物としては32～34までの土器を図示した。32は土師質の甕形土器の口縁部から頸部にかけてのものである。外面は摩耗が著しいため調整の観察はできない。頸部内面のやや下方以下はヘラケズリで仕上げている。

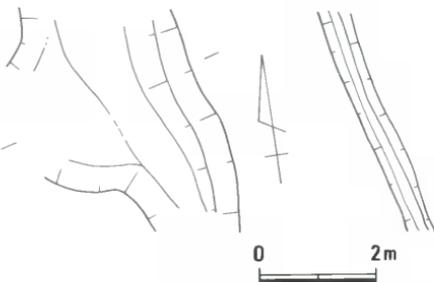
色調は淡茶褐色を呈し、胎土には1mmから3mm大の石英、長石を含む。33は須恵器の杯蓋である。口縁部を下方に折り曲げ、同端部をわずかに突出させて丸くおさめている。色調は灰白色を呈し、胎土には1mm大の砂粒を含む。奈良時代の特徴を示す。34はミニチュアの須恵器である。

口縁端部には受け口状に溝がめぐり、胴部には径1cmの円形の小孔が穿たれており、底部は平底である。胴部内面上端と円孔の外面には剝離痕が見られ、円孔の外面には把手もしくは注口状のものが付いていたものと想定される。内面の剝離痕は斜め上方へ延びることを示している。色調は灰青色を呈し、胎土には1mm大の長石を含む。高蔵寺2号窯出土品^(註1)の中に、これと類似する器形のものがあり、把手付中空円面硯としている。土壙3の時期は奈良時代以降である。

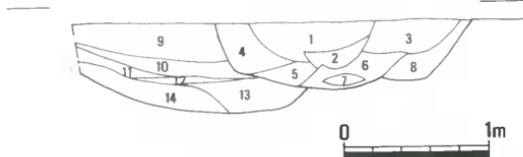


0 2m

第25図 溝6・7平面図 (1/100)



0 2m



0 1m

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 灰褐色砂 | 8. 灰色砂 |
| 2. 淡茶灰色砂 | 9. 灰茶色砂混じり土 |
| 3. 濃灰色砂 | 10. 淡灰色砂 |
| 4. 灰茶色砂 (粘土を少量含む) | 11. 淡灰茶色砂 |
| 5. 淡黄茶灰色砂 | 12. 灰色粘土混じり砂 |
| 6. 淡茶灰褐色砂 | 13. 淡黄灰色砂 |
| 7. 淡灰色砂 | 14. 暗灰色粘土混じり砂 |

第26図 溝8・9・10平面図・断面図 (1/100・1/40)

溝6 (第25図)

調査区の西端、グリッドOラインの東側で検出した。溝は北北西から南南東方向へ流れ、断面形はU字形を呈する。規模は幅60cmから80cm、深さ15cmから20cmを測る。

遺物は35 (第27図) の土器が出土した。上げ底の壺形土器か甕形土器の底部である。色調は橙褐色を呈し、胎土には1mmから2mm大の石英、長石を含む。弥生時代前期末から中期初頭の特徴を示す。溝の時期は弥生時代中期以降である。

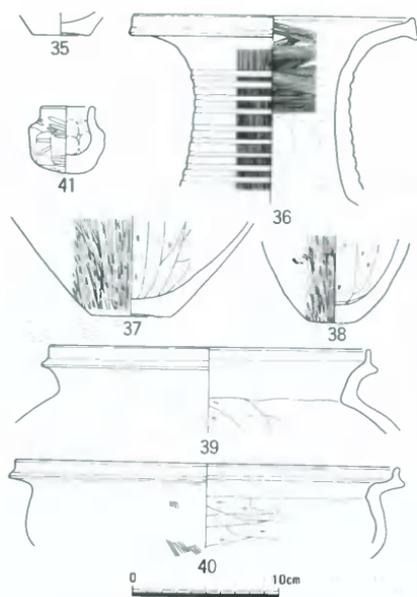
溝7 (第25図)

溝6の東側に位置していて、北北東から南南西方向へ流れ、断面形は浅い皿状を呈する。規模は幅70cmから100cm、深さ12cmから20cmを測る。遺構からの出土遺物はない。

溝8 (第26・27図)

グリッドFラインの西側で検出した。溝は北西から南東方向へ流れるもので、断面形は逆台形を呈する。後に述べる溝9に切られている。規模は幅200cmから300cm、深さ60cmから65cmを測る。

出土遺物としては36から41までの土器を図示した。36は口縁部が外側に大きく開き、同端部を丸くおさめた長頸の壺形土器である。外面の口縁部から頸部に移行するあたりは、ヨコハケの後ヨコナデで仕上げられ、それ以下の頸部



第27図 溝8出土遺物 (1/4)

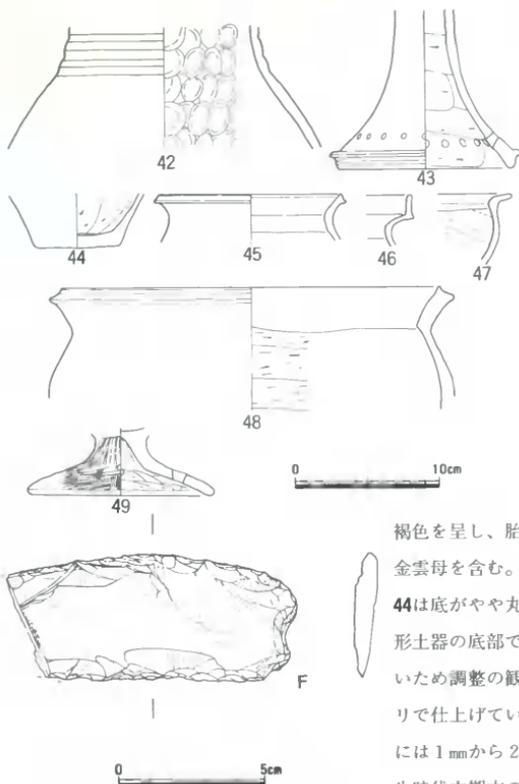
につまみ上げ、口唇部を丸くおさめた甕形土器である。外面はヨコナデ、内面は口縁部から頸部までをヨコナデ、それより下方をヘラケズリで仕上げている。色調は茶褐色を呈し、1mmから2mm大の石英、長石、金雲母を含む。弥生時代後期後半の特徴を示す。**40**は口縁部が外反し、同端部を上方へつまみ上げ、口唇部を丸くおさめた鉢形土器である。外面はハケメの後ナデで、口縁部の内面はナデ、頸部のやや下方以下はヘラケズリで仕上げている。口縁部内外面には赤色顔料が塗られている。色調は淡茶褐色を呈し、胎土には1mmから2mm大の石英、長石、赤色焼土粒、金雲母を含む。弥生時代後期後半の特徴を示す。**41**は口縁部を上方へつまみあげ、同端部を丸くおさめた手づくね土器である。胴部外面は平行タタキの後、ヘラで粗く調整して仕上げている。内面はオサエの跡がある。色調は暗褐色を呈し、胎土には1mm大の石英、長石、金雲母を含む。溝の時期は弥生時代後期後半である。

溝9 (第26・28図)

溝8の東側で、グリッドPライン上で検出した。北から南へ流れ、断面形は逆台形を呈し、溝8を切っている。規模は幅150cmから250cm、深さ45cmから55cmを測る。

出土遺物としては**42**から**49**までの土器、**F**の石器を図示した。**42**は壺形土器である。頸部外

はタテハケの後ヘラ描沈線が施されている。内面の口縁部から頸部上半まではハケ目の後ヨコナデで、それより下方はケズリ、ヨコハケ、オサエの順に調整している。色調は淡茶褐色を呈し、胎土には1mmから5mm大の石英、長石、赤色焼土粒、金雲母を含む。弥生時代後期後半の特徴を示す。**37**は上げ底の壺形土器あるいは甕形土器である。胴部外面は2mm幅のヘラミガキ、内面はヘラケズリで仕上げられている。外面にすすが付着している。弥生時代後期後半の特徴を示す。**38**は底がやや丸味をおびた壺形土器あるいは甕形土器である。胴部外面は2から3mm幅のヘラミガキで、内面では、底はヘラによる調整、上はヘラケズリで仕上げている。外面には黒斑がある。色調は暗褐色を呈し、胎土には1mm以下の石英、長石、金雲母、黒雲母を含む。弥生時代後期後半の特徴を示す。**39**は口縁端部を上方



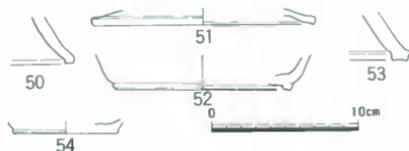
第28図 溝9出土遺物 (1/4・1/2)

内面は頸部のやや下方以下をヘラケズリで仕上げている。色調は淡茶褐色を呈し、胎土には1mmから3mm大の石英、長石を含む。弥生時代後期末の特徴を示す。**46**は口縁部を上方に拡張した甕形土器である。拡張部には擬凹線を施し、内面は頸部のやや下方以下をヘラケズリで仕上げている。色調は淡橙色を呈し、胎土には1mm以下の石英、長石、金雲母を含む。弥生時代後期末の特徴を示す。**47**は口縁部を「く」字状にするどく外反させ、同端部を丸くおさめた小型の甕形土器である。外面はヨコナデ、内面は頸部のやや下方以下をヘラケズリで仕上げている。色調は暗褐色を呈し、胎土には1mm大の石英、長石、赤色焼土粒を含む。弥生時代後期末の特徴を示す。**48**は口縁部が外反する鉢形土器である。外面はヨコナデで、内面は口縁部を2~3mm幅のヘラミガキで、頸部のやや下方以下をヘラケズリで仕上げている。色調は褐色を呈

面は凹線を施した後ヨコナデで、内面はオサエで仕上げている。色調は灰褐色を呈し、胎土には1mm大の石英、長石を含む。弥生時代中期後半の特徴を示す。**43**は高杯の脚部である。外面はナデで、内面は脚端部までヘラケズリで仕上げている。脚部下端は上方に粘土を貼り付け拡張している。穴は外面から内面に向けて穿たれているが、貫通しているものと、貫通していないものの両者がある。色調は淡

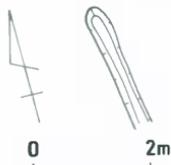
褐色を呈し、胎土には1mm以下の石英、長石、金雲母を含む。弥生時代中期後葉の特徴を示す。**44**は底がやや丸味をおびた壺形土器あるいは甕形土器の底部である。外面は摩耗、剥離が著しいため調整の観察はできない。内面はヘラケズリで仕上げている。色調は淡褐色を呈し、胎土には1mmから2mm大の長石、黒雲母を含む。弥生時代中期末の特徴を示す。**45**は口縁端部を丸くおさめた甕形土器である。外面はヨコナデで、

し、胎土には1mmから3mm大の石英、長石、金雲母、黒雲母を含む。49は脚端部を丸くおさめた高杯の脚部である。外面はハケ目の後3～4mm幅のヘラミガキで、内面は脚端部までヘラケ



第29図 溝11出土遺物 (1/4)

ズリで仕上げている。穴は外面から内面に向けて5個穿たれている。内外面には淡橙色の化粧土を塗布している。胎土には1mmから2mm大の石英、長石を含む。弥生時代後期末の特徴を示す。Fは溝の底面から出土したサヌカイト製の打製石包丁である。

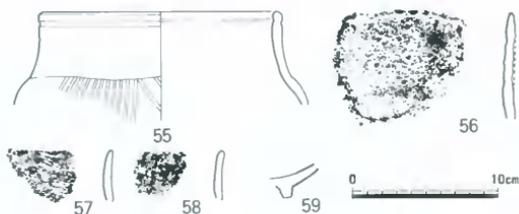


第30図 溝12平面図 (1/100)

片方の紐かけを欠失しているが、完形に近い形状を呈している。現存する大きさは長さ9.6cm、幅4.4cm、厚さ0.75cm、重さ57.3gを測る。溝の時期は弥生時代後期末である。

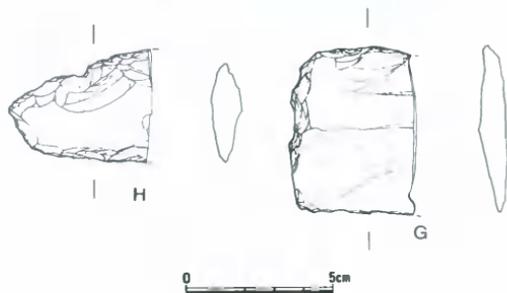
溝10 (第26図)

溝9の東側で検出した。溝は磁北に近い方向を示し、北から南へ流れる。断面形は浅い皿状を呈する。規模は幅40cmから50cm、深さ5cmから10cmを測る。遺構からの出土遺物はない。



溝11 (第23・29図)

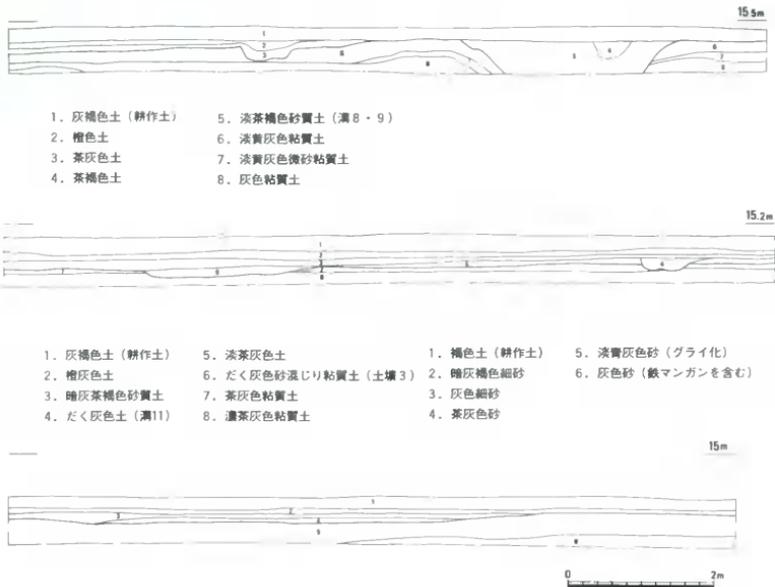
調査区の東寄り、グリッドSラインに重なる位置で検出した。溝は真北に向くもので、北から南へ流れる。断面形は浅い皿状を呈する。規模は幅80cmから100cm、深さ10cmから15cmを測る。



第31図 出土遺物 (1/4・1/2)

出土遺物としては50から54までの土器を図示した。50は須恵器製の台付壺の脚部である。色調は灰青色を呈し、器面の一部に自然釉がかかっている。胎土には1mmから2mm大の長石を含む。51は口縁部を下方に曲げ、わずかに突出した同端部を丸くおさめた須恵器の杯蓋である。

天井部はヘラケズリで、それ以外はヨコナデで仕上げている。色調は淡青灰色を呈し、胎土には1mmから2mm大の石英、長石を含む。奈良時代の特徴を示す。52は高台付の須恵器の杯である。



第32図 土層断面図 (1/80)

る。焼成は甘く、色調は白色味をおびている。胎土には1mm大の砂粒を含む。奈良時代の特徴を示す。53は円面甕の脚部である。脚部外面から内面に向けてヘラ切りによる方形の透し孔が開いている。脚端部の上面にはシャープな稜線をもつ拡張部がある。色調は灰青色を呈し、胎土には1mm大の長石を含む。54は中世の土師質の皿形土器の底部である。摩耗が著しいため調整の観察はできない。色調は淡褐色を呈する。溝の時期は中世である。

溝12 (第30図)

グリッドTラインの西側で検出した。溝はほぼ真北を示し、北から南へ流れる。上部が削平を受け、調査区の南半分のみ残存していた。埋土は灰白色粘質土である。規模は幅30cmから40cm、深さ7cm前後を測る。遺物は古代から中世の土器を含むが、いずれも細片である。溝の時期は中世である。

包含層の遺物（第31図）

出土遺物としては55から59までの土器・磁器、G・Hの石器を図示した。55は口縁部を上方にひきあげ、同端部を丸くおさめた壺形土器である。摩耗が著しく器面調整の細かい観察はできないが、口縁部上端の内外には沈線が各1条、頸部から胴部に移行するあたりから下方以下にも沈線が施されている。縄文時代後期後半の特徴を示す。56・57・58は縄文土器の口縁部である。摩耗が著しく、器面の観察はできにくい。56は口縁端部に刻目が施される。時期は後期から晩期である。59は高台を有する青磁碗である。高台の径は推定6cm、高さ7mmである。釉はオリブ灰色を呈し、高台の一部にも流れている。

Gはサヌカイト製の打製石包丁である。紐かけが横にあり、対になる方は欠失している。現存する縦幅5.8cm、横幅4.3cm、厚さ0.95cm、重さ36.16gである。Hはサヌカイト製の打製石包丁である。紐かけが上部にあり、対になる方は欠失している。現存する縦幅4.9cm、横幅3.9cm、厚さ1cm、重さ19.95gである。

（古谷野）

註

註1 杉本宏「飛鳥時代初期の陶硯——宇治準上り瓦窯跡出土陶硯を中心として——」『考古学雑誌』第73巻第2号 1987

参考文献

下澤公明他「百間川沢田遺跡2、百間川長谷遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告59』岡山県教育委員会 1985

4 まとめ

今回の調査対象になった地区は、昭和60年度に実施した圃場整備事業に伴う確認調査の結果を基に線引きがなされた範囲内にある。井原線は、その範囲の南端に近い部分を通るものである。この蓮池尻遺跡は、その中心と考えられるのは、銅鐸の出土した近くであり、確認調査においても、多くの遺構を検出し、多くの遺物が出土している。

発掘調査を実施した地区は、小字名で鶏田、皿田、竹西、沖田である。井原線は、これらの地区を東西に貫くものである。地形的に見ると、竹西調査区が最も高く東側、西側へと徐々に下がって行く。鶏田調査区においては、東端に暗茶灰色土の包含層を確認した。出土遺物が少ないため確定的ではないが、弥生時代の包含層と考えられるものである。この包含層と、その下層の地山層と考えられる黄色の粘質土は、調査区の東端から4～5mまで広がるもので、そこから西は河道により切断されている。河道の時期は明確ではないが、概ね古墳時代以後と考えられ、以後何回かの洪水を繰り返すことにより現在の地形を呈するに至ったものと考えられる。そのため、弥生時代の地形を考えると、鶏田調査区の東端部に長さ10m前後の微高地を推定することができる。

皿田調査区においては、黄色の地山層を全体に検出した。しかし、暗茶灰色の包含層を検出したのは、調査区の西側に約20mの範囲であり、この包含層は鶏田調査区へ続くものと考えられる。検出した遺構もこの部分に集中している。遺構の中からの出土遺物が少ないため、明確な時代は不明であるが、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての時期と考えられる。

竹西調査区では、茶褐色の包含層をほぼ全面に検出した。調査区の西端部では、耕作土の直下に砂で埋まる河道を検出した。検出した遺構は、包含層の下層に存在するもので、古代より古い時期と考えられる。これらの遺構の下層から、弥生時代前期の土器がまとまって出土した。土器を包含する層は、砂層であること、土器に磨滅が見られることからして上流からの流れ込みと考えられ、この地区の上流に弥生時代前期の集落址を想定することができる。

沖田調査区は、東に向けて徐々に下がっていき、東端部においてさらに一段と低くなっている。この調査区においてもほぼ全面に茶褐色の包含層と黄色上の地山層を検出した。東端部は、耕作土直下に地山層を検出したが、遺構は確認されなかった。検出した遺構は、溝と性格の不明な土壌状の遺構である。調査した溝は、弥生時代後期のものと、奈良時代末もしくは平安時代、及び中世と推定されるものを検出した。

調査の概要をまとめたものであるが、昭和60年度に実施した確認調査に基づく遺跡の範囲については概ね正しいものと考えられる。今回の調査地点は、その範囲の南端に近いこともあ

て遺構の密度は低かったが、調査区の北側の上流部には縄文時代後・晩期、弥生時代前期以後各時代の集落址が予測され、時期の重複する遺跡が展開するものと考えられる。 (井上)



1 鶏田調査区 土壌1検出状況 (南から)



2 鶏田調査区 全景 (西から)



1 皿田調査区 溝 2 検出状況 (北から)



2 皿田調査区 溝 1 検出状況 (北から)



1 皿田調査区 遺構検出状況 (東から)



2 竹西調査区 西端部河道検出状況 (東から)



1 竹西調査区 溝5検出状況 (南から)



2 竹西調査区 西半全景 (東から)



1 竹西調査区 東半全景（東から）



2 竹西調査区 弥生土器出土状況



1 竹西調査区 弥生土器出土状況



2 竹西調査区 弥生土器出土状況



1 竹西調査区 弥生土器出土状況



2 沖田調査区 溝6・7検出状況(西から)



1 沖田調査区 溝 8・9・10検出状況 (東から)



2 沖田調査区 全景 (西から)



出土遺物



出土遺物

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 79

蓮池尻遺跡

井原線建設に伴う発掘調査 2

平成4年1月20日 印刷

平成4年1月31日 発行

編 集 岡山県古代吉備
文化財センター
発 行 岡山県教育委員会
印 刷 サンコー印刷株式会社